

日本の近代化を支えた足尾の 産業遺産等を活用した地域おこし

1 社会資本の概要

東洋一の産銅鉱山として発展してきた足尾銅山は、日本の近代化産業発展と共に成長してきました。

往時の足尾銅山が残した遺産の中でも大正元年(1912)に開通した足尾鉄道(桐生～足尾間・現わたらせ渓谷鐵道)は精錬した銅を運ぶための重要交通で過去には国有化された時期もあり、日本の経済発展に大きく貢献しました。

このような歴史がある足尾において、足尾駅の木造駅舎やプラットフォームは国の登録有形文化財に登録されています。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

足尾歴史館は、平成17年に開館し、足尾地域内に残る歴史的資源並びに伝統文化の調査記録・保存活用等に関する事業を行っています。

平成19年4月には、大正元年に建てられた国の登録有形文化財である足尾駅の木造駅舎を主役に、足尾銅山への貨物を運ぶためのディーゼル機関車を走れるよう修理し、デモ走行した「足尾駅祭」を初めて開催し、約3000人の参加者を集めました。

その後も、大正15年から昭和28年まで足尾の町中を走行し、銅山の資材や生活物資輸送及び足尾町民の足となっていた通称ガソリンカーを手づくりで復元し、現在も毎年4月から11月までの毎月第一土・日曜日に体験運転を足尾歴史館で開催し、鉄道ファンの人気を集め地域おこしに尽くしています。

また、毎年冬季に行われる、わたらせ渓谷鐵道主催の『わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション』の中で、足尾駅の飾り付けを毎年手づくりで実施しています。



H19.4.28「足尾駅祭」開催状況多くの人が沿道に駆けつけました



多くの人が復活したガソリンカーを堪能した「ガソリンカー祭」
現在も毎月、第一の土曜日・日曜日に試乗会を開催しています



足尾歴史館内で地元日光市や県外から来た学生に対し、
総合学習の授業として説明する長井理事長



足尾駅でのイルミネーション飾り付けは足尾歴史館で毎年実施しています



栃木県 日光市

特定非営利活動法人 足尾歴史館

3 活動の成果や波及効果等

104年の歴史を持つ、わたらせ渓谷鐵道と連携して開催した「足尾駅祭」などの鉄道イベントでは、参加規模は足尾町の人口約2,000人に対して、日本全国から3,000人規模の集客があるなど、地元全体が恩恵を受け、鉄道利用者が増加し地域おこしに尽くしています。

また、住民は行政への依存度が非常に高かったのですが、イベントに参加することで、その意識も少しずつ変化し、イベントスタッフ等に地元住民が多く参加するようになりました。

さらには、足尾から他地域への移住者がこの活動を知って、参加するようになってきています。



館内では、足尾に関する歴史資料や模型、パネルを展示



手づくりで復元したガソリンカー（左）と
立山砂防事務所のトロッキ（右）

喜びの声



受賞者

NPO法人 足尾歴史館
理事長 長井 一雄

コメント

12年間活動し、評価していただいた事、感謝しています。足尾は深刻な過疎化が進む中、私たちの活動が地域おこしに少しでも寄与出来れば、とても嬉しいことです。受賞をスタートに今後も活動を続けて参ります。

活動内容

足尾歴史館運営、保存車両の一般公開、足尾駅イルミネーション、産業遺産ガイド、足尾銅山の世界遺産登録推進 など

活動の経緯

平成17年 足尾歴史館の開館
平成18年 世界遺産登録を考える会発足
平成19年 足尾駅祭開催
平成21年 ガソリンカーを復元し一般公開しています。また、足尾駅にて年3回、保存車両等も一般公開しています。

手づくり
について
郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

栃木県日光市足尾町掛水

活動主体及び連絡先

NPO法人足尾歴史館（12月～3月：冬期閉館）（0288-93-0189）
HP：<http://ashiorekishikan.com/>

対象となる社会資本

わたらせ渓谷鐵道 足尾駅 ※管理者：わたらせ渓谷鐵道（株）

